

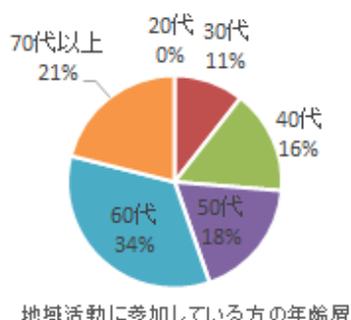
課題4 まちの魅力向上 「区民主体のまちづくりの支援」

〔本市様式 P. 40～41〕

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・地域活動（身近な地域の社会環境をよくするために、市民や地域の各種団体、NPO 法人、ボランティア団体、事業者などが地域を中心に取り組む公益的な活動）に参加している区民の割合は17%、そのうち60代以上が全体の6割程度を占めている。

【平成27年度区民モニター】



要因分析（現状・データから導かれる分析結果）

- ・東成区は、地域コミュニティの活動が活発なまちであるが、活動者は高齢層に比べ若年層が少ない。
- ・地域コミュニティを活性化させ、複雑多様化する地域課題の解決には、地域課題や資源等をよく知っている地域団体等や市民、NPO、企業等の活動主体と行政が協働して取り組みを推進していくことが大切である。しかし、地域活動に参加しやすい環境が整っていると感じている方や、多様な活動主体の協働が進んでいると感じる方は、少ない状況である。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・より多くの区民が地域活動へ参加・参画できるよう、地域や取組みの情報が広く発信されるとともに、一層の開かれた地域コミュニティづくりを進める必要がある。

平成28年度東成区運営方針

主な取組みと中間振り返り（11月末時点）

<取組実績>

○【地域活動協議会に対する支援】

- ・地域活動協議会に対する補助金を交付し、補助金の使途の区ホームページでの公表
- ・各地域の会議や事業へ参加し地域ニーズや情報の収集
- ・広報紙への地域情報の掲載：毎月掲載（8回）
- ・勉強会・交流会等の開催：6回
- ・民主的で開かれた組織運営と会計の透明性を確保するための専門的なアドバイスの実施

<中間振り返り>

⇒取組みは予定どおり進捗している。

平成 29 年度東成区運営方針策定の方向性

区役所が考える方向性

【めざす将来像】（概ね10～20年間を念頭に設定）

- ・様々な活動主体が互いに理解し信頼し合いながら協働する豊かなコミュニティとなっている。
これらの活動主体が行政と協働して地域課題に取り組んでいる。

【めざす状態】（概ね3～5年間を念頭に設定）

- ・様々な活動主体が地域活動に参画し、地域課題に取り組んでいる。

【戦略】＜中期的な取組みの方向性＞

- 地域において、様々な活動主体が参画し、地域特性を活かした地域活動が行われるよう、地域活動協議会への支援を行う。
- 自律的な地域運営を行うことができるように、中間支援組織を活用しての専門的なアドバイスや情報発信、交流の場等の提供を行う。

具体的取組

○4-1-1【地域活動協議会に対する支援】（29年度予算要求額17,500千円）

地域活動協議会に対する支援を行うとともに、地域情報の発信、交流会等を開催する。

- ・地域の会議や事業への参加：各地域（11地域）40回
- ・勉強会・交流会の開催：6回
- ・会計の透明性の確保に向けた取組み：11地域
- ・広報紙への地域情報の掲載：12回

- ＜目標＞
- ・地域の中でつながりを実感している区民の割合：50%以上
 - ・中間支援組織から支援を受けていると感じている活動主体の割合：50%以上



いろいろな地域が集まる意見交換会の様子



各地域での特色ある活動支援（東中本）

課題4 まちの魅力向上 「にぎわいや活気のあるまちづくり」

〔本市様式 P. 40、42～44〕

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・小学校区を越えた範囲で、地域活動協議会をはじめ、地域団体や市民、NPO、企業などいろんな方々が連携し、協働することによって、まちづくりに関する活動が進められていると感じている区民の割合：28% [+4]

【平成27年度区民モニター】[]は前年度比較

- ・区政会議「にぎわい・きずな部会」において、「東成区のにぎわいを活性化させていくためには、東成区の地域資源をPRする必要がある、そのためには、市民協働の視点から東成区のことを再認識する必要がある」との議論がなされた。

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）

- ・区政会議「にぎわい・きずな部会」における「まち歩き」に関する議論内容を踏まえ、東成区のにぎわいをもたらす地域資源の発見・発掘をしていくためには、区民とともに東成区を再度よく知る必要がある。
- ・区民とともに、にぎわいのあるまちづくりを推進するため、東成区の地域資源を効果的にPRしていくことが大切である。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・東成区のまちの魅力を高め、にぎわいのあるまちづくりを推進するためには、市民協働の視点から区民とともに「まち歩き」などを実施し、東成区の魅力をもっとPRするとともに、その活用を含めた仕組みづくりが必要である。

平成28年度東成区運営方針

主な取組みと中間振り返り（11月末時点）

<取組実績>

○【多様な協働による地域活動の活性化】

- ・東成区の地域資源を活用して、区民や各種団体等のネットワークづくりを推進し、地域の活性化に繋げるため「ひがしなり街道玉手箱」を開催した。（11月）
企画チーム会議の開催：月2回ペースで開催、参加団体交流会の開催：4回

○【市民活動団体等との協働による課題解決】

- ・協働型事業委託の採択事業件数：1件

○【ふれ愛パンジーまちづくり活動支援事業（東成区市民活動推進助成）】

- ・まちづくり活動支援事業補助金を活用している事業数：1件

○【「東成区の地域資源」魅力発信事業】

- ・東成区住工共存まちづくり懇談会主催の工場見学の開催：2回（5・11月）

○【区のにぎわい創出に向けた取り組みの強化】

- ・まち歩きの実施：1回（11月）

<中間振り返り>

⇒取組みは予定どおり進捗している。

平成 29 年度東成区運営方針策定の方向性

区役所が考える方向性

【めざす将来像】（概ね10～20年間で念頭に設定）

- ・東成区のまちに魅力やにぎわい、活気があり、区民が愛着を持って暮らしている。

【めざす状態】（概ね3～5年間で念頭に設定）

- ・様々な活動主体と区役所が協働により、地域資源を活用して、にぎわいや活気のあるまちづくりが進められている。

【戦略】＜中期的な取組みの方向性＞

- 新たな担い手を発掘するため、ふれ愛パンジーの活用やイベントの開催を通じて、様々な活動主体が交流できる機会や場の提供を行う。
- 区民とともに東成区の地域資源を発見・発掘し、その地域資源を活用することで、にぎわいや活気の創造に取り組む。

具体的取組

○4-2-1【多様な協働による地域活動の活性化】（29年度予算要求額1,160千円）

東成区の地域資源を活用し、多様な活動主体と地域がつながる「ひがしなり街道玉手箱」の開催に協力し、その広報・情報発信をしていく。

- ・運営事務局会議の開催：月2～4回
- ・参加団体交流会の開催：6回

＜目標＞・ひがしなり街道玉手箱の参加者人数：延べ5,000人以上

○4-2-2【「東成区の地域資源」魅力発信】（29年度予算要求額1,914千円）

区の特徴である「モノづくり」を通じて、次世代を担う人材育成に取り組むとともに、まちの魅力等の地域資源を発掘し、にぎわいづくりにつなげていく。

- ・「わが町工場見てみ隊」（工場見学）の開催：2回
- ・「モノづくり体験フェスタ」の開催：1回
- ・「まち歩き」の実施：3回

＜目標＞・東成区がモノづくりのまちだということを知っている割合：50%以上

- ・「モノづくり体験フェスタ」の参加者人数：500人以上

○4-2-3【市民活動団体等との協働による課題解決】（29年度予算要求額1,004千円）

地域課題の解決について市民活動団体等から提案をもらい、協働により取り組む「公募型提案委託」を実施する。

＜目標＞・協働型事業委託によって地域課題等の解決に向けて取り組むことができた事業数：1件以上

○4-2-4【ふれ愛パンジーまちづくり活動支援事業（東成区市民活動推進助成）】（29年度予算要求額549千円）

ふれ愛パンジーを活用し、東成区のまちづくりが活性化する市民活動に対して助成を行う。

＜目標＞・当補助金を活用する市民活動団体等の事業：1事業以上



ひがしなり古典芸能サロン



ひがしなり街道玉手箱での阿波踊り

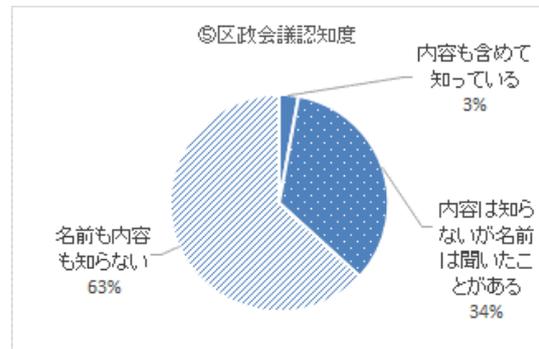
課題5 区民が利用しやすく信頼される区役所づくり

[本市様式 P. 45～50]

現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ①区のさまざまな取組みに関する情報が伝えられていると感じる：32.9%[-1.0]
- ②区のさまざまな取組みについて、区民から評価を受けるような工夫をしていると思う：22.7%[+7.7]
- ③区役所が区政運営について区民の意見や要望を聞くような工夫をしていると思う：32.3%[+14.3]
- ④区役所での来庁者への案内サービスや窓口での対応が以前に比べてよくなったと感じる：83.1%[+12]

【平成27年度各区に共通する区政運営に関する事項についてのアンケート】[]は前年度比較



【平成27年区民モニター】

要因分析（現状・データから導かれる分析結果）

- ・区民の多様な意見やニーズ、評価などが区役所に届いていると感じている区民の割合や、区取組みに関する情報が届いていると感じている区民の割合は、増加傾向にあるものの、水準としてはまだ低い状況である。要因の一つとして、区民の意見やニーズを把握し、区政運営に参画し、評価する場である区政会議についての認知度の低さがある。
- ・区役所のサービスや対応が良くなっていると感じる区民の割合は増加傾向にあり、比較的高い水準である。

課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・区民の多様な意見や要望を把握し、区政に反映する取組みを進めると同時に、区政に関する情報をより多くの人に届けるために効果的な情報発信が必要である。
- ・来庁者の声を改善に活かし、引き続きサービス向上に努める必要がある。

平成28年度東成区運営方針

主な取組みと中間振り返り（11月末時点）

<取組実績>

- 【区政会議運営事業】
 - ・区政会議の開催：1回（7月）、3部会の開催：各2回（6月・8月）
- 【区民の声を把握する取組】
 - ・区民モニターやアンケートの実施：1回、地域担当職員による地域情報の収集：11地域
- 【広報事業の充実】
 - ・区民サービスの向上地域情報の広報紙への掲載：8回、広報板の活用：16回、区長からの情報発信：8回
- 【区民サービスの向上】
 - ・「来庁者満足調査」に寄せられた意見数：27件
- 【職員力向上】
 - ・職員と区長の意見交換会の開催：57回、プロジェクトチームによる業務改善活動

<中間振り返り>

⇒取組みは予定どおり進捗している。

平成 29 年度東成区運営方針策定の方向性

区役所が考える方向性

【めざすべき将来像】(概ね10～20年間を念頭に設定)

- ・区政に関するわかりやすい情報が広く区民に届けられるとともに、区民の多様な意見や要望などが的確に区役所に届き、区民の区政運営に対する満足度が高い。
- ・職員がやりがいを感じ、業務に最善を尽くすことで効率的な業務運営が行われ、区民サービスの向上が図られている。

【めざす状態】(概ね3～5年間を念頭に設定)

- ・区民の意見やニーズを把握し、区民が区政運営に参画・評価する仕組みが進んでいる。
- ・区役所からの情報が区民にいきわたり、区役所と区民との情報共有が図られている。
- ・窓口業務において、区民がサービスの向上を実感できる。

【戦略】<中期的な取組みの方向性>

- 区政会議や区民アンケート等の方法により多様な区民の意見やニーズを把握し、区政運営の参考として活用する。
- 読みやすくわかりやすい表現の魅力ある広報紙を発行する。広報紙やホームページなど様々な広報媒体を活用するとともに情報発信における地域参加により地域課題の解決を図る。
- 来庁者の声を取り入れ、区民サービスの向上につなげるとともに、職員がやりがいを感じて業務に取り組む職場風土を作る。

具体的取組

○5-1-1【区政会議運営事業】(29年度予算要求額 662千円)

- ・区政会議の開催：3回、部会の開催：9回
- ・ホームページや広報紙での速やかな公表
- <目標>・区政運営について区民の意見や要望を反映していると思う区民の割合：60%以上

○5-1-2【区民の声を把握する取組】(29年度予算要求額 1,652千円)

- ・区民アンケートの実施：4回
- ・地域担当職員による地域情報の収集：11地域
- <目標>・アンケート実施が区民ニーズの把握に有効だと思う区民の割合：60%以上

○5-2-1【広報事業の充実】(29年度予算要求額 14,464千円)

- ・地域情報の広報紙への掲載：12回
- ・広報板の活用：24回
- ・広報紙、HPによる区長からの情報発信：各12回
- <目標>・区の様々な取組みに関して、必要とする情報が伝えられていると感じる区民の割合：60%以上

○5-3-1【区民サービスの向上】(29年度予算要求額-)

- ・「来庁者満足調査」の実施
- ・職員プロジェクトチームによる具体的改善策の実施
- <目標>・来庁者への案内サービスや窓口での対応が良いと感じた区民の割合：80%以上

○5-3-2【市政改革を推進する職員づくり】(29年度予算要求額-)

- ・区長と職員のミーティングの実施
- ・先進事例を活用した職場内研修の実施
- <目標>・常に行政のプロとしての意識を持ち業務に取り組んでいる職員の割合：36%



広報紙「ひがしなりだより」